

電子部品



地域密着で営業する京セラのフランチャイズ店

東日本大震災で多くの工場が被災した電子部品業界。欧州での財政危機問題も重なり、昨夏には2011年度の通期業績見通しを下方修正するメーカーが相次いだ。しかし震災で日本の電子部品の流通が滞ったことの影響側で、日本メーカーの優位性があらためて認識されたのも事実。中国などの海外勢にシェアを奪われつつある一方、高機能化には依然として強みを発揮し、震災で傷ついたインフラの復興や海外市場の取り込みに力を注ぐ。

創エネ・省エネを支援

震災で節電対策の必要性が求められる中、電子部品業界は再生可能エネルギーを推進するとともに、オフィスと工場の省エネを支える部品や機器の開発に取り組んでいる。一方、省エネ支援の取り組みではFDKと日本無線がデータセンター（DC）の電力ロスを低減する独自の直流給電装置をそれぞれ開発した。初めに京セラソーラー・ランチャイズを展開を始めるなど、独自の経営手法のノウハウを共有して地域密着の販売・施工・サービスを実施する。現在までに日本全国で

173店を設置しているが、今年度内には200店まで拡大し創エネ・省エネの後押しに貢献する。さらに、今春には太陽電池のエネルギーを直接充電できる蓄電装置の発売を予定。災害時の長期的な停電の際も電気を活用できるため、太陽電池モジュールとの相乗効果を狙う。



世界中に供給する体制を構築しているタムラ製作所的大型トランス

また、発光ダイオード（LED）照明の関連製品の開発も加速。サンケン電気が電源部の部品点数を約30%削減できる電源IC、日本航空電子工業はコネクタを開発するなど対応機器の開発が急ピッチで進んでいる。かつては日本のお家芸と言われた電子部品、しかし近年は中国や台湾と

いった海外勢が攻勢を強め、日本勢は汎用品を中心にシェアの低下に直面している。このため、中国をはじめとする新興国市場の取り込みが一段と重要になっており、各社とも営業活動を強化。海外でのビジネスを活性化させることで円高対策につなげる狙いもみえる。東光は11年に中国の販

売代理店を倍の6社に拡充し、中国全域をカバーする体制を整えた。これまでは北京と深圳、青島に代理店を構えていたが、北京を2社体制にしたほか新たに上海と香港にも設置した。代理店が構成する事務所を活用して中長期的にデジタル機器の普及が見込める中国で需要を取り込む。タムラ製作所は中国など新興国を中心に風力発電や鉄道などの投資が増えるのを予測し、海外向けに大型変圧器（トランス）の販売を強化する。

現在、トランスを含めた電子部品は中国（合肥、華南、マレーシア、インド、チエコ、英国の計6拠点で生産しているが、3月末までに8拠点体制を築く。大型トランスを世界中に供給しているメーカーが少なくことから、各地域で進んでいる大型化の需要を取り込む。

一方、日本は研究開発や最先端製品の生産に特化するなど、国内外の拠点で役割分担が鮮明になっている。FDCは山口県に工場を建設し、高性能なフレイト（磁性材料）の開発に力を入れる。02年から中国生産に移行していたが、自動車などに使用される高付加価値部品や部品など国内生産や国内調達が中心になってくると見通し、開発拠点と生産拠点を国内に集約。材料開発から製造までの一貫生産を敷き、タイムリーな納入を実現する。今後、12年上期をめどに電気自動車（EV）やハイブリッド車（HV）に使用されるトランスのコア材として売り出す方針だ。

電機

「スマート」実ビジネスに



スマートシティは電気自動車などともネットワークを形成する

東日本大震災以降、中長期的な電力不足をどう乗り切るかが課題になる中で、エネルギーの活用手法が問われている。特に日本ではスマートグリッド（次世代電力網）の必要性の高まりや、スマートシティ（環境対応型都市）の建設が現実味を帯びている。すでに電機各社は被災地の自治体に復興計画を組み込んだ「街づくり」の提案を開始。世界的に盛り上がる「スマート」ビジネスを、実証段階から実ビジネスに脱皮させようとする。

スマートシティは太陽電池や省エネ家電を組合わせIT技術で制御する省エネ型都市だ。電力の総合活用だけでなく、交通ネットワークなどその領域は広範に及び生活スタイルそのものを替える。これまでは「シティ」とは名ばかりで、小規模の実験に留まっていたのが実情だった。だが、一から都市計画を練る必要がある被災地では、一気に普及する

可能性がある。すでにNCCは30以上の自治体、日立は仙台市など被災3県10以上の自治体への売り込み体制を整える。また東芝は宮城県石巻市に、富士通も福島県会津若松市に整備を提案している。

国内でエネルギー政策の切り札と位置づけられるスマートシティ。海外でもアジアの新興国を中心に都市開発が相次ぎ、日本企業の存在感が増す。東芝は2015年度に先行する日立も「連携」で巨大市場の攻略に挑

事業の成否を握るのは技術の提携も含め「パートナー」選びの見極めだ。東芝の佐々木則夫社長は「足りない機能は提携などで補充する必要がある」と強調。実際、11年にスマートメーター大手のスイスのランディスギアを買収した。米ヒューレット・パッカドとは電力消費量を最適化するシステム構築での協業を決めた。

スマートシティでは先行する日立も「連携」で巨大市場の攻略に挑む。すでに中国で総事業費3兆5000億円の国策プロジェクト「天津エコシティ」に参画。パナソニックと組み、省エネ住宅などの環境配慮型都市づくりを提案している。また、シンガポールでは政府と手を結び、インフラ整備事業を進める。もちろん、海外事業は地域によって現地法人だけでなくの開拓も進んでいる。人脈作りや商習慣など多くの課題が横たわる。現地で

プロジェクトの提案では日本企業が存在感を示す（11年に開かれたスマートグリッド展）

復興へ「街づくり」提案

海外売上高を11年度見通しに比べ3.5倍の5700億円に引き上げる計画だ。売り上げの6割超を海外で稼ぐ。中国など約20の計画に参画するが、課題になるのは国情的違いだ。スマートシティは国ごとの気候や気候などを踏まえた個別の提案が必要になる。求められる範囲も電力から鉄道、水処理まで多岐にわたる。一社だけで提供するのには難しい。

ここで商談の機会を提供する。その具体策として日立は11年6月に「新グローバル化推進計画」を策定した。インドネシアやベトナムなど世界の11地域を選び、本社スタッフが市場調査を踏まえて事業化に向けた計画を立てる。その上で事業部や子会社に海外進出を打診する。現地政府や関連機関との人脈づくり、法律や商習慣などの情報も提供

ただ、震災復興が始動することで、皮肉にもこれまで小規模にとどまっていたスマートビジネスが大規模プロジェクトとして離陸する可能性が高まった。世界に発信できるモデルケースが期待されている。世界で飛躍する土壌は整いつつある。

「スマートビジネスは、独シメンスや米ゼネラルエレクトリック（GE）など世界の巨人もめめ込む有望市場だ。それだけに日本勢が青写真通り、事業成長につなげられるかは不透明感も強い。

また、震災復興が始動することで、皮肉にもこれまで小規模にとどまっていたスマートビジネスが大規模プロジェクトとして離陸する可能性が高まった。世界に発信できるモデルケースが期待されている。世界で飛躍する土壌は整いつつある。



つくろう!日本

eco eit series 「浮遊物・浮上油回収装置」

空気清浄機の専門メーカー
O-DEN

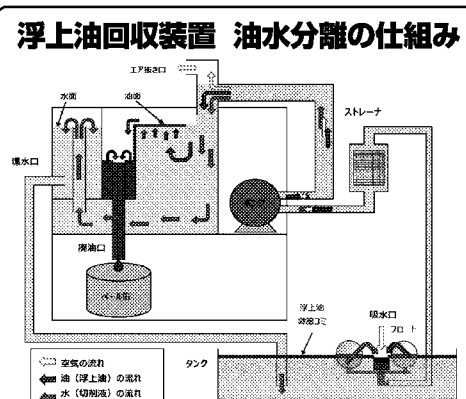
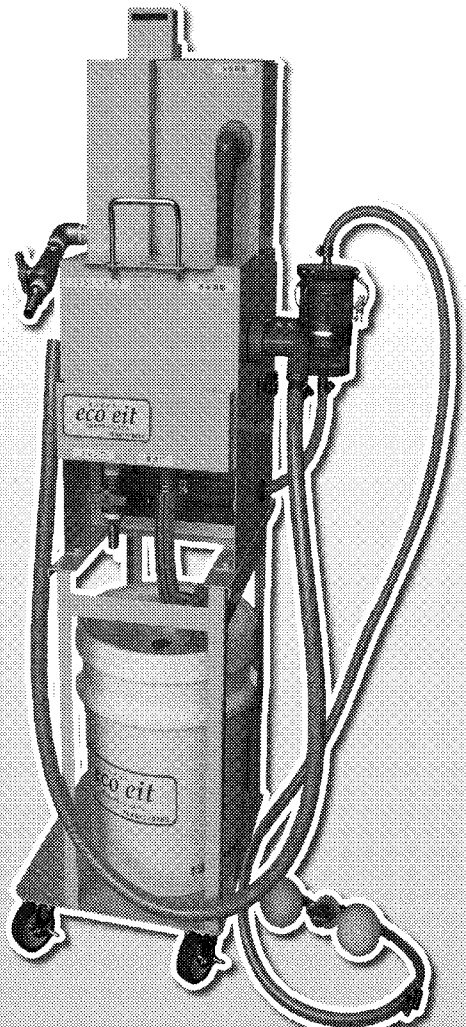
油水分離強化型「Wシリーズ」

～消泡効果に格段の違い!～

- ・設置場所
工作機械の水溶性クーラントタンク
熱処理部品の洗浄・冷却用タンク
塗装部品の前洗浄用タンク
エアコンプレッサのドレンタンク
工場廃液用ピット

などに効果的です。

1台3役
・コストダウン
・品質向上
・環境改善対策

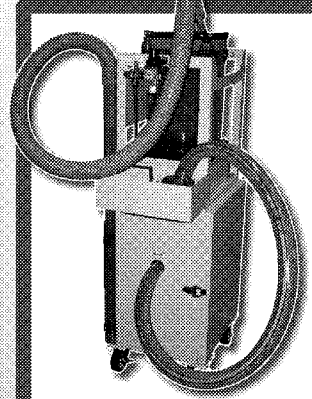


ポンプの動作で水と油が分離槽内に送り込まれ油は上へ水は下へと2層に分離される。水は排水口より排出されタンクへ戻り、油は廃油口から回収される

【仕様】	
機種名	WD-A (ステンレスタンク仕様)※1
外形寸法	531×431×1336H (突起部、専用台車含む)
分離槽寸法	280×146×255H×2段 (合計約16L)
ポンプ部(ケース)寸法	280×190×390H
重量(タンク空時)	25kg (本体のみ) 40kg (専用台車含む)
駆動源	エア (標準圧力 0.3MPa)
フロート	φ75 球型 2個 (3個タイプもあり)
ポンプ	ダイヤフラムポンプ吐出 32L/min (揚程 1.8m、0.3MPa時) ※2
接続配管口径	吸入口:φ12mm 環流口:φ19mm 廃油口:φ25mm
耐熱温度	0～80℃ (凍結無きこと)
処理液	工作機械等の水溶性切削水・洗浄液・焼入液・工場廃液等 (固形物を除く) ※3
設置条件	戻り口の高さを、タンク液面より高い位置に設置し、平坦な場所 ※4

工作機械の能力を最大限に引き出し、プロの仕事に差をつける

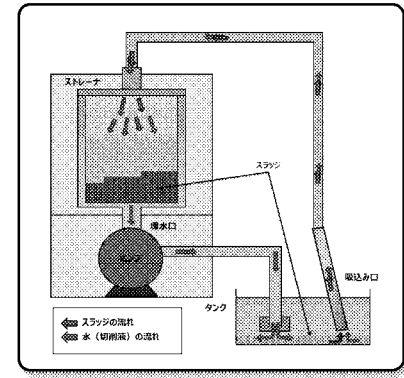
- オーデンは
- ① 培ってきた電気集塵技術
 - ② ニッケル多孔体を用いたオイルミスト処理
 - ③ 現場エンジニアリングの集積
 - ④ 全国規模のメンテナンス体制によって、お客様の工場の空気の問題に関する解決策をビジネスとしています。



データが証明!

eco eit series スラッジ回収装置 姉妹品

【仕様】	
機種名	ES-A
外形寸法	540×378×1130H (突起部、専用台車含む)
回収フィルター寸法	高機動型コンパクトサイズ
重量(タンク空時)	Φ150×240H (約4L) 全金属メッシュ 45kg (2分割可 下段25kg 上段他付属品20kg)
駆動源	エア (標準圧力 0.4MPa)
ポンプ	ダイヤフラムポンプ吐出 100L/min (揚程 6.0m、0.4MPa時)
接続配管口径	吸入口:φ32mm 環流口:φ32mm
耐熱温度	0～60℃ (凍結無きこと)
処理液	工作機械等の水溶性切削水・油性切削水・洗浄液・焼入液・工場廃液等 (固形物を除く)
設置条件	平坦な場所



- ◆ シンプル構造で使い方は簡単
- ◆ 強力吸引でタンクの底を綺麗に
- ◆ タンク内をきれいに吸えます
- ◆ 吸引した液体はタンクに戻ります